学校番号	2102

令和３年度　情報科

教科	情報	科目	社会と情報	単位数	２単位	年次	全年次
使用教科書	社会と情報「高等学校　社会と情報」　（数研出版）						
副教材等	30 時間でマスターOffice2013（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・情報社会は自動車社会と同じように知らなければ危険なことも多い。そこで必要なモラルや知識を学習し、安全に生き抜く力を身につけてほしい。
・現代は情報があふれているが、そこから自分にとって必要な情報を収集し、判断できるようになってほしい。

2　学習の到達目標

・問題解決をするために、情報を収集し、判断・決定していくことができる。
・ネットワークコミュニケーションの有用性と危険性について理解を深め、活用できる。
・情報を表現する方法を身に付け、効果的に伝達することができる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	・情報を多角的・多面的に吟味し、その価値を見極めていこうとする態度 ・自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする態度 ・情報モラルや情報に対する責任について考え行動しようとする態度 ・情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度	・さまざまな事象を情報とその結び付きの視点から捉える力 ・問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力 ・複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力	・情報と情報技術を活用するための基礎・基本的な技能を身に付け、目的に応じて、情報および情報技術を適切に扱っている	・情報と情報技術を適切に活用するための知識とそれを活用して問題を発見・解決するための方法についての理解 ・情報社会の進展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響、および、情報に関する法・制度やマナーの意義と情報社会において個人が果たす役割や責任についての理解
評価方法	学習状況の観察 ワークシートの記述 実習作品 レポート、発表 相互評価・自己評価 等	学習状況の観察 ワークシートの記述 レポート 定期考査の結果 自己評価・相互評価 等	学習状況の観察 課題作品 発表 実技テストの結果 等	学習状況の観察 ワークシートの記述 定期考査の結果 等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
	情報とメディアの活用	○情報、メディアの歴史 ○情報の表現・伝達 ・情報の性質・価値・信ぴょう性 ・情報発信の問題 ・表現技法 ○マスコミュニケーション ○メディアリテラシー ○表現技法を活用した課題の製作	○ ○ ○	 ○ ○ ○ 	 ○	○ ○ ○ 	a:コンピュータの仕組みに興味をもち、学習に積極的に取り組もうとしている。 b:様々な情報源を用い、総合的な判断ができる。 適切な技法を選択し、活用することができる。 c:情報機器を用いて情報をディジタル化することができる。また、ディジタル化した情報を編集し、発信することができる。 d:情報やメディアの特徴を理解し、社会の一員としての自覚をもつ。	授業観察 ワークシート 定期考査
	望ましい情報社会の構築	○情報社会が抱える問題 ・テクノ依存症・情報格差 ・アクセシビリティ・ユニバーサルデザイン ○ユビキタスコンピューティング ・ IoT(Internet of Things) ○情報システム ・身の回りの情報システム(防災システム、GPS など) ・電子商取引 ・情報システムの運用(可用性)	○ 	 ○ ○ 	○ 	○ ○ 	a:情報社会が抱える問題に関心をもち、技術を活用しようとしている。 b:情報システムや提供されるサービスの活用のあり方、社会生活に及ぼす影響と役割について考えている。 c:効果的に情報を伝達する手段を考え、ユニバーサルデザインのひとつのピクトグラムを作成することができる。 d:情報社会を支える技術や、デザインを理解し、身の回りの情報技術を活用できる。	ワークシート 授業観察 定期考査
	情報社会とモラル	○個人情報 ・個人情報の漏洩・流出 ・ビッグデータの活用 ・マイナンバー制度 ○サイバー犯罪 ・悪意のあるソフトウェア(コンピュータウイルス) ・ソーシャルエンジニアリング ○セキュリティ ・情報の管理 ・暗号化 ○知的財産権 ・著作権 ・産業財産権	○

	ディジタル情報と情報通信ネットワーク	○情報のディジタル表現 ・2 進数、16進数 ・文字・音・画像・動画のディジタル化 ○インターネットのしくみ ・パケット通信 ・IP アドレス	○	○ ○	○ ○	○ ○	a:コンピュータが行うディジタル表現について関心をもち、ディジタル化の実技など取り組むことができる。 b:ディジタルとアナログの違いを理解した上で、適切な方法を選択し、ディジタルで表現することができる。 c:進数表現の変換を行うことができる。 アナログからディジタルへの変換ができる。 インターネットを活用し必要な情報を素早く検索できる。 d:ディジタル化のしくみやネットワーク通信のしくみを理解している。	授業観察 ワークシート 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。